



略 歴

小松代 融 一

(明治 39 年 12 月 3 日生)

昭和 26 年 11 月 岩手県立杜陵高等学校教頭

昭和 36 年 9 月 文学博士の学位授与

昭和 40 年 4 月 岩手医科大学教養部教授

昭和 43 年 4 月 岩手医科大学教養部長 (至昭和 49 年 3 月まで)

昭和 50 年 3 月 岩手医科大学停年退職

昭和 53 年 4 月 岩手女子高等学校校長兼教諭

平成 元年 8 月 岩手女子看護短期大学看護学科、教授、文学 (設置審判定)

平成 2 年 4 月 岩手女子看護短期大学長兼教授 (平成 5 年 3 月迄)

平成 4 年 11 月 勲四等瑞宝章

平成 5 年 4 月 岩手女子看護短期大学名誉教授

弔 辞

謹んで故小松代融一先生のご霊前に岩手女子奨学会を代表いたしましてお別れのことばを申し上げます。

先生と最後にお目にかかりましたのは去る4月6日看護短大の入学式の時、控室でいつものようにお元気なお声で私共に親しくお声をかわして下さいました。あの時のお顔やお声が未だはっきり残っておりますのに余りにも唐突に旅だたれるとは誰しも思いもよらないことでしたので、驚愕と残念さで人生のはかなさ、我身に惨み思い知りました。

かえりみますと、先生とご親交を頂いたのは昭和6年4月岩手高等女学校教諭としてご着任されたことにはじまります。先生はその後一時期、県立一の関中学校、盛岡中学校、水沢中学校、そして盛岡高等女学校、杜陵高等学校など県立学校に奉職され又、教育研究所等を歴任された後、岩手大学学芸学部講師、更に岩手医科大学教授等の要職につかれました。岩手医科大学教養部長を最後に定年退職されましたこの機会にご縁があって再度岩手女子奨学会の経営する岩手女子高等学校にご就任なされ今日に至っております。その間、岩手女子高等学校長として教育にご尽力される一方、学校法人岩手女子奨学会理事並びに評議員としてご気概あふれる手腕をふるわれました。

平成2年に岩手女子看護短期大学の開設後は初代学長として建学の礎を築かれました。その他にも学内外の役職も兼ねられ広範囲に活躍されました。

今年93歳というご高齢にも抱わず教育に対する情熱は益々高く、終生看護専攻科と看護短大の学生に文学のご講義を、この4月から又始めるとのお考えをもたれ計画準備されておられることを伺いました。先生の古典のご講義は単なる言葉の解釈に留まらず、その当時の世情と現在の世情の相通ずるところのあることを学生に理解させるべく教授されておられました。

先生はこのように青少年の教育を生涯の仕事として尽瘁される一方、先生の学者としての大きなご足跡のあることも忘れてはならないのであ

ります。職業としての教育に専念されるかたわら方言の研究に取りくまれて多くの学術論文を出され、昭和36年に母校東洋大学文学部で文学博士の学位を授与されました。それ以後の方言研究にもたゆむことなく励まれておられる先生の御姿をいつも感動して拝見しておりました。このように先生が永年に涉って教育にご尽力されたこと並びに言語学上の研究業績を高く評価され数々の表彰をお受けになられました。

昭和39年には県の教育功労者表彰

昭和53年 文化庁長官表彰

昭和59年 岩手日報社文化賞

昭和59年 岩手県知事表彰

昭和63年 産業教育功労表彰

昭和63年 岩手日々新聞社文化賞

又、平成4年には教育に対する顕著なるご功績の故をもって勲四等瑞宝章と多くの受賞の恩恵に浴され広く社会につくされたその拡大なご活躍が偲ばれるのであります。

先生はことある毎に人間の誠実の大切さを説かれ信義にもとる行為をしてはならないと常日頃のご教訓でした。

永年に涉って先生の御教えを受けた多くの学生、生徒、教職員は今後先生の御遺徳と御業績をけがすことなく一層自己向上に努めることが先生のご恩にお答えする道であると存じます。

先生、永い間本当に有り難うございました。

終りに謹んで先生の御冥福をお祈りし追慕申し上げる余り蕪辞をつらねお別れの詞と致します。

平成11年4月16日

学校法人岩手女子奨学会

理事長 三田明子